

最優秀賞

中学生部門

静岡市立高松中学校3年

小林 瑞希

信じる

日光にあたると私の皮膚は赤く変色し、発疹が出る。痒くなって引つ掻くと血が出る。どんな薬を飲んでも抑えられなかった。紫外線を避けるために一年中長袖を着ているが、長袖は自分の醜い傷や肌を人に見せないようにするためでもある。長時間日光にあたるため、体育祭にも出られないと言われた。中学校生活最後の体育祭なのに……。

なんで私だけ！その思いは心の中に留めることができず、態度に出してしまった。一人でふさぎ込み、「大丈夫？」と親に言われても、大丈夫に見える？とひねくれた感情を持ちながら、「まあ。」と答えていた。治ると言われていたのに治らず、もう誰も信じていなかった。下ばかり見ていたある日、一人の友だちが、『瑞希が笑顔で体育祭に出られる方法！』と書かれた紙を私に渡した。そこには、長袖の体操着で出る。日焼け止めの塗り直しを許可してもらおう。日に当たるのは最小限にして、あとは日陰で休んでいるなど、友だちが考えてくれたアイデアが詰まっていた。体育祭のチームリーダーの色長は「全員で出よーぜ！」と声をかけてくれた。担任の先生を始めとした先生方は、親身に相談に乗せてくださった。両親は、あまのじゃくな私を見捨てないでいてくれた。私は沢山の人に助けられながら生きていくんだと気づいた。

私は、アレルギーを言い訳に、ただ逃げているだけだった。誰も信じなかったのも、いつかきつと治ると信じている自分だけを信じていたからだろう。この時、自分がとてつもなく小さく見えた。そうやっていつまでも逃げることをやめ、自分の壁は自分で越えなければいけない。今、私は信じている人が沢山いる。信じている人が応援してくれるから、きつと私は壁を乗り越えられる。

体育祭の当日、笑顔で仲間たちと共に臨んでいる私を、私は強く、強く信じる。